リハビリテーション科の取り組み
～リハビリ強化施策がもたらしたもの～

セラピスト数の変化

平成22年9月

* 理学療法士;11名
* 作業療法士;3名
* 言語聴覚士;0名

* 合計14名
  （常勤換算;13.5名）

セラピスト数の変化

平成23年7月

* 理学療法士;20名
* 作業療法士;8名
* 言語聴覚士;3名

* 合計31名
  （常勤換算;28人）

診療報酬の変化

平成22年9月

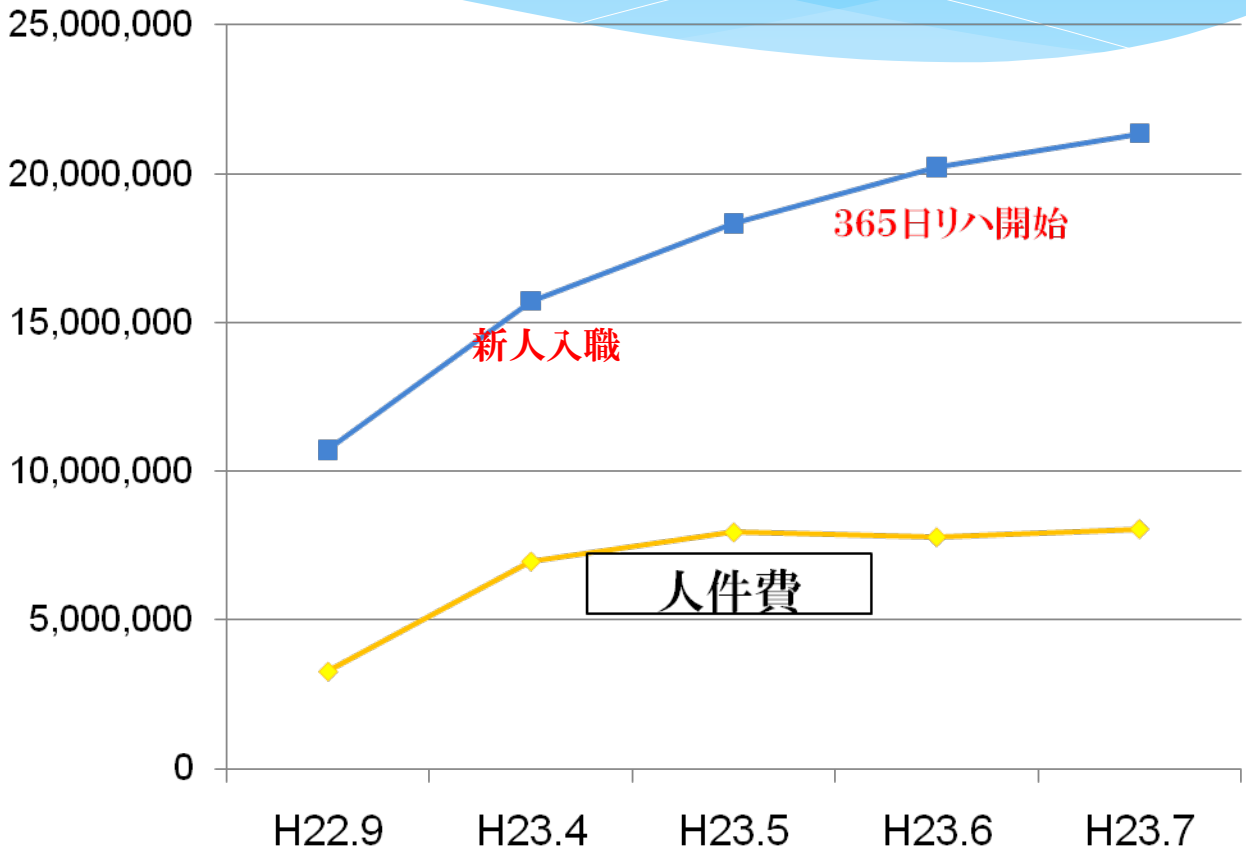
1，070，830点

（人件費率31％）

平成23年7月

2，133，420点

（人件費率37％）



次年度に向けた人員計画

入院（119床）、外来（1日平均35名）に対し、十分なリハビリの実施と最大限の利益効率を目標とし、現在38名体制を目標としている。

具体的な取り組み・・・・

① 365日リハビリテーション

6月1日までは…

日曜日・祝日は半日勤務、スタッフ2人体制

⇩

6月1日より…

365日ローテーションでリハビリを実施

（1日平均20名のスタッフが勤務）

入院患者ほぼ全員にリハビリテーションを提供

② チーム担当制

スタッフを、一般病棟・外来チームと療養病棟チームに分け業務を分担すると共に、それぞれにリーダーを配置し指示命令系統の厳格化

それぞれのチームの特徴は…

【一般病棟・外来チームの特徴】

・交通事故外来

→院長秘書2名がリハビリテーションセンターに常駐し、対応の窓口となると共に、積極的に理学療法・作業療法を実施

・血液浄化リハビリテーション（人工透析）への介入

・手術見学

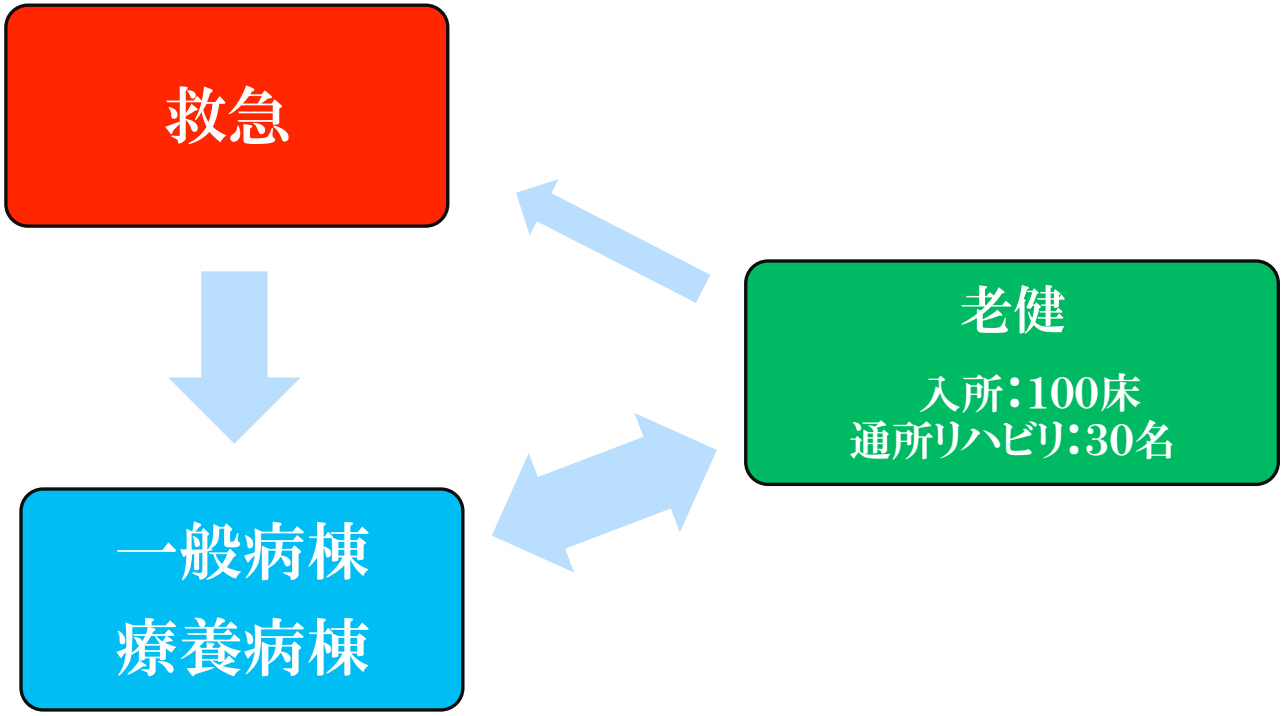
→リハビリ対象患者の手術時には必ず理学療法士・作業療法士が見学に入り、術後リハビリへ反映

【療養病棟チームの特徴】

・廃用症候群の予防、改善を目的に、看護師・介護士等と連携し離床や活動の促進

→食堂スペースを利用して、集団リハビリやレクリエーションなどの活性化活動の提供、食事など日常生活場面への積極的な介入を実施

③老健との連携強化



血液浄化リハビリテーション科（人工透析）の開始

- 4月より人工透析が導入
- 透析中のリハビリテーションなど、透析医療とリハビリテーションを合わせたサービスを提供

結果

①院内外へのリハビリテーション科のアピール

・リハビリ目的での転院患者等の増加

昨年 月平均5件⇒今年度　月平均10件

②診療報酬の増加

③他部門との連携強化

・廃用症候群の予防、改善（ADLへの介入）

④老健との連携強化

・職員の人事交流、情報の共有

リハビリ強化に向けた取り組み概要

before

- スタッフ数：14名
- 取得単位数：約4500単位
- 入院リハビリのニーズに対して対応が不十分
  （実施頻度や時間の制限）
- 外来リハビリへの消極的な関与
  （人員不足により物療で対応）
- 他部門との連携不足
- 特徴のあるリハビリ体制、サービスの不足

取り組み

- セラピストの採用強化
  【3病院との連携】
  ○就活フェアへの参加
  ○養成校への訪問等
- 365日リハビリの導入
- 外来リハビリに注力
- 人工透析リハの導入
- 老健施設との連携
  ○人事交流等
- 業務改善
  （組織作り、研修体制等）
- 環境整備
  ○リハセンターの改修等

取組結果

- スタッフ数：31名
- 取得単位数：約10000単位
- 診療報酬の増加
  （1000万円/月の増収）
- 個別対応が可能に
- 他部門との連携強化
- 老健との連携強化
- リハ目的患者の増加
  （人工透析、外来リハ等）